

天理大学ふるさと会海外研修報告書

「『できる!』を実感する授業を目指してーインドネシアにおける 行動中心アプローチの実践と課題ー」

国際学部外国語学科韓国・朝鮮語専攻4年生

後藤幹弥



1. はじめに

この度は、ふるさと会海外研修生としてご選出いただき、誠にありがとうございました。私は将来、海外で日本語教師としての道を志しております。そのため、在学中から海外における日本語教育の現場に携わる機会を探してまいりました。日本語教員養成課程の一環として予定されていた台湾での教育実習に参加する予定でしたが、定員に満たなかったため実施されないこととなり、諦めざるを得ませんでした。そこで、「ふるさと会海外研修基金」を機会として活用させていただきました。この「天理大学ふるさと会海外研修基金制度」の研修生としてご選出いただいたことで、海外で日本語教師として教壇に立ち、日本語教育に携わる貴重な経験をすることができました。

私が今回、このような貴重な経験ができたのは、ふるさと会の皆様、国際交流センター室の方々など、多くの方に支えていただいたからこそ実現できました。

改めまして、心から感謝申し上げます。

2.研修の目的

私は、海外研修生としてインドネシアへ渡航するにあたり以下の2つのことを目的に定めた。

①海外の教育機関で日本語教育に携わり、インドネシア語話者の文化に即した授業運営や指導法を学び、日本語教師としての経験を積むため。

②日本での生活を目前に控えた学生へ、会話を中心とした日本語教育を行うため。

①については、「1.はじめに」で記述した通り、私は海外で日本語教師になることを志している。4年次生になると行われる教育実習は国内の日本語学校で行われ、様々な国籍の学生がいる教室で日本語の実習を行った。勿論、多様な国籍の学生がいる教室で、既に日本で生活をしている学生に日本語を教える際の指導法を国内の教育実習では学び実には有意義な実習であったが、私は海外での日本語教師になることを志しているため、海外に私が行き、同じ母語話者の学習者が集まる、日本とは異なる環境で日本語を教える経験が必要であった。

②について渡航先を選ぶ際に、いくつか候補があったがその中でもこの学校を選んだ理由は、会話を中心とした実用的な授業を行い、インドネシアの学生をサポートしたいと思ったからである。この学校に通う学生のほとんどは卒業後に日本で生活をするが、会話の能力が低いという問題があった。また、現地には日本語母語話者の教員がいなく、実用的な会話の練習が難しく、課題だという話を事前に聞いた。そこで私は、この学校で会話を中心とした授業を行い、日本語学習へ貢献したいと思った。

3. 研修先及び期間

【研修先】

インドネシア、バリ、デンパサール、富士日本語学校

【期間】

2025/8/26 ～ 2025/9/13 (19 日間)

私は、8月26日から9月13日までの19日間、インドネシアのバリ、デンパサールにある富士日本語学校で日本語を教えてきた。この学校は日本語学校であるため、日本語教育を専門に行う教育機関である。

この学校には、約60人の学生が在籍している。この学校に通うほとんどの学生が日本での就労を目的に日本語を学んでいた。そのため、特定技能ビザを取得するために必要な言語能力の条件である、日本語能力試験4級（JLPT N4）の取得を目指して勉学に励んでいる。また、この学校に通うほとんどの学生がこの学校に住んでおり、日中には教室として使用している部屋が、夜には寝室になる。学生にとって学校は日本語を学ぶ場所でもあり、生活をする場所でもあった。1日のスケジュールは以下の通りである。

「学習時間割¹」

08:00～08:30	起床
09:00～10:00	1 時間目
10:00～10:20	休憩
10:20～12:00	2 時間目
12:00～13:00	昼休み
13:00～15:00	3 時間目



「校舎の写真」

上記は1日のスケジュールであるが、日本とは異なる点がいくつかある。

まず、日本では、1時間目は文法、2時間目は会話など、1日で学ぶ教科が複数に分かれているのが普通であるが、この学校では1日文法であれば丸一日文法、会話であれば丸一日会話というように、時間ごとの区分がなかった。また、担当教員も、時間毎の交代ではなく、1日単位で交代となるため、丸一日同じ教員が授業を行う教育制度だった。

また、10時から10時20分の間は休憩時間であるがこの時間はコーヒーを飲む時間であり、庭に出て自由に時間を過ごす時間があり、慣れない光景に最初は驚いた。

本来であれば、10時から10時20分までの20分間が休憩時間であるが、実際は10時半以

¹ イスラム教徒の学生が多いため、金曜日は昼に礼拝時間がある。

13:00～13:30 礼拝

降から 2 時間目が始まることがほとんどであり、時間を絶対守る日本の文化とは異なっていた。

また、研修期間であるが当初は 9 月 10 日に帰国予定であったが、食中毒に感染し入院をすることになったため、帰国が 13 日へと変更になるというトラブルがあった。

「コーヒーの写真」



「休み時間の様子」



4. 授業の実践

4.1 担当教科

この学校では、以下の 3 つのクラス分けがされている。

- ① ひらがな・カタカナクラス
- ② N4 クラス
- ③ 会話クラス

この 3 つのクラスに分かれているが、①の「ひらがな・カタカナクラス」は入学したばかりの学生を対象としたクラスである。②の「N4 クラス」は、特定技能のビザ申請条件に必要な日本語能力試験 4 級の取得を目指したクラスである。③の「会話クラス」には N4 を取得した学生がいるクラスであり、就職活動をしている学生や、就職先が決まっていて、日本で生活を目前に控えた学生がいる。

私が今回、学校へ出勤したのは 8 月 28 日から 29 日、9 月 1 日から 4 日までの 6 日間である。その中で、①ひらがな・カタカナクラスには 1 回、②N4 クラスには 3 回、③の会話クラスには 2 回入った。

- ①「ひらがなカタカナクラス」、「N4 クラス」には担当する先生がいたため、授業のサポー

トを行った。具体的には、「採点、問題作り、発音指導、語彙のニュアンス・意味の違い」などである。一方、③の「会話クラス」には担当の先生がいないため、一人で授業を行う必要があった。日本とは異なり、丸一日、同じ先生がクラスを担当するため1時間目から3時間目の計4時間40分の授業をしなければならないが、私はこれまで授業をしても1日に1時間程度の授業しかしたことがなかったため、1日に4時間40分の授業をするというのは大きな挑戦であった。

私は「会話クラス」を2回担当したので、その2日間の授業実践の内容、成果について次に記載する。



「授業の様子」



「N4 クラス」

4.2 1回目の会話クラス 2025/9/1（月）

1回目の授業を準備するにあたり、日本での就職を目前にした学生たちにどんな日本語を教えれば良いのか、どんな授業スタイルで教えるのかなど、準備段階で悩んでいた。

学生に必要な能力について考えた時に、日本文化やマナー、敬語、漢字など様々なことを考えた。それらを含めて私は学生に「生活をするための日本語」をまずは最優先に教えることにした。そして、行動中心アプローチという学習方法を用いることにした。

この行動中心アプローチについて文化審議会国語分科会において以下のように定義されている。

「多様な背景を持つ言語の使用者及び、学習者を、生活、就労、教育等の場面において、様々な言語的/非言語的な課題（tasks）を遂行する社会的存在として捉える考え方のことである。」（『日本語教育の参照枠 報告』文化審議会国語文科会）

このように定義されているが、つまりは学習者に何ができるのかを重視した考え方である。

この行動中心アプローチを取り入れた教材に『いろどり』²という教材があり、この教材を用いて授業を行うこととした。

この中でも1回目の授業では、「初級1, 第14課 休みをとってもいいのでしょうか?」を取り扱った。

この課の学習目標は以下の通りである。

- ① 職場に、電話で休みや遅刻の連絡をすることができる。
- ② 休暇届などの書類の記入方法について質問して、その答えを理解することができる。

この2つを目標にし、授業を行った。この課を選んだ理由は、日本で就職をする上で、学習者が遭遇する可能性の高い場面だからである。

この日は15人の学生が授業に参加した。初日であったため、学生たちは少し緊張をしている様子であった。学生たちの緊張を和らげるためにボールを使った簡単なアイスブレイクを行った。まず、ボールを投げ、受け取った学生は、名前、授業が終わったら何をしているか(バイトをしている人はどんなバイトをしているか)について答えてもらった。答え終わったら、学生が学生へボールをなげて、次の人も同じように答える自己紹介の方法である。このアイスブレイクでは教師と先生の関係だけでなく、学生から学生へボールをパスすることで、場の空気が和み、良い雰囲気作りをすることができた。

この課では、まず、教科書に沿って職場に電話や遅刻の連絡をするための語彙や文法について学んだ。応用練習としては、新人と部長の役に分けて仕事を休む(遅れる)電話をする練習をペアで行ったり、学生と先生役に分けて練習を行うなどロールプレイを中心に練習を行った。また、授業の後半では、学習者に休暇届を作成してもらい私が部長役として、休暇届にサインをするところまで、実践的な練習を行った。

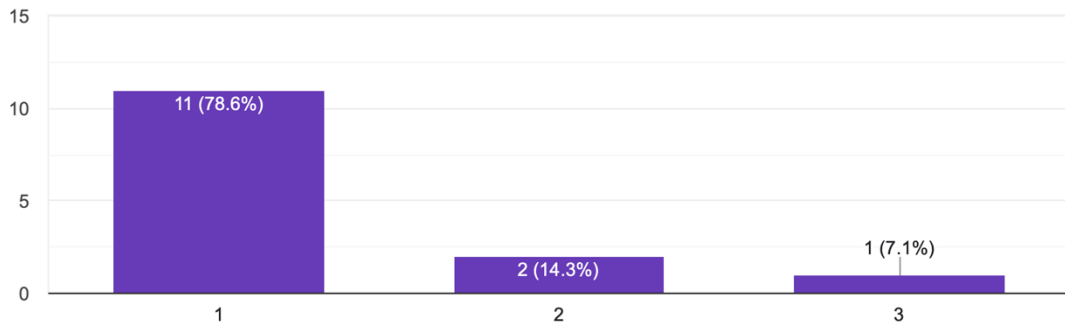
授業の最後には、振り返りとして学生に授業ノートを記入してもらった。以下がその結果である。

² 国際交流基金(2020) 発行

質問 1

職場に、電話で休みや遅刻の連絡をすることができる。 Äb0Mampu menelepon tempat kerja untuk menyampaikan perihal tidak masuk kerja atau keterlambatan.

14 件の回答

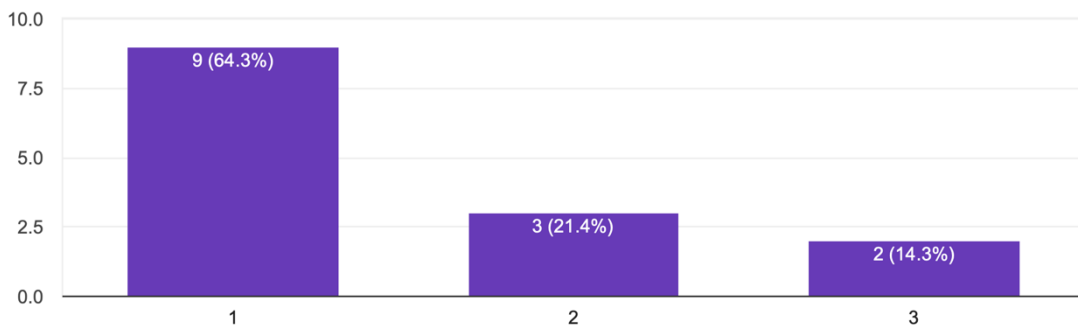


上記の質問 1 では、数字が 1 になる程、理解ができたというグラフである。「最も理解できた」と回答したのは、11 人でほとんどの学生は目的を達成できたと回答をしていた。一方、2, 3 にチェックを入れた学生が 3 人いた。

質問 2

休暇届などの書類の記入方法について質問して、その答えを理解することができる。 Äb0Mampu bertanya mengenai cara pengisian suatu dokumen ... lain-lain, serta mampu memahami jawabannya.

14 件の回答



休暇届の作成においては、9 人が「最も理解できた」にチェックを入れていた。しかし、会社への電話に比べて達成率が下がったことから、会社へ電話をするよりも、少し難易度が高かったようである。2 に 3 人、3 に 2 人チェックをいれていた。また、授業の感想について

一部抜粋し以下に記載する。

A さん とても楽しく、電話での情報の伝え方や休暇届の書き方などを理解することができました。先生、本日はありがとうございました。

B さん 少し難しいですが、とても楽しいです。日本にいるときにとても役立ちます。ありがとうございます。

C さん 今日のレッスンはとても楽しく、後で日本で働くときにも役立つと思います。先生、今日の知識に本当に感謝しています。

D さん 漢字が難しい

以上のような回答が見られた。肯定的なコメントが多く、「日本で働くときに役立つと思った」という声が多く、日本での就職を控えた学生に意味のある授業ができた、自己評価をしている。一方、「漢字が難しい」といった声もあった。漢字については、学習者に無駄なストレスを与えてしまったと思い、もっとふりがなを付けたり、難しい漢字は大きく書くなど、改善点が見つかった。また、人生で初めて、1日に4時間40分という長時間の授業を行い、時間管理、ペース配分がかなり難しかった。授業資料は多く準備をしていたので問題なく、一応、目標としていたところまでは終わったものの、途中で練習問題を省いたりしていた。学習者中心の授業であるため、学習内容によっては、意外なところで躓いたり、学生ごとにレベルの差があったり、ペース配分が上手くできなかった。次回の授業では、これらの反省を活かして授業を行うことにした。

4.3 2回目の会話クラス 2025/9/4 (木)

2回目の授業では、22名の学生が授業に参加した。『いろどり』『初級1, 第10課 日本語教室に参加したいんですが・・・』を元に授業を作成した。この課の授業目標を以下に記載する。

- ①公民館などの講座の案内を見て、場所や日時などの情報を読み取ることができる。
- ②役所の窓口などで、興味のある講座について質問し、その答えを理解することができる。

この課では日本語教室だけでなく、公民館でできる様々な習い事について学んだ。この課を選んだ理由は、これから日本で生活をする学生たちが続けて日本語を学び、地域の人と関われる機会を作りたいと考えたからである。また、公民館は比較的安価に様々なことを学び、

経験ができるため、通いやすいと考えた。

この課ではまず、教科書の流れに沿って、公民館についての情報を読み取る力や、公民館に行くことを想定し、窓口での質問の仕方やその答えを理解できるようになる練習を行った。授業の後半では、ネットから公民館のホームページを検索し、グループで公民館の中からしてみたい習い事を選び、その習い事について日時、場所、費用などの情報を読み取る練習を行った。その後に、この日が私の授業の最終日だったため、ゲーム感覚で学べる、「言葉集めビンゴ」を行った。このゲームは、まず、学生にビンゴ用紙を配布後、思いつく動詞をマスに記入してもらう。その後に 1 回目の授業で使用したボールを用いて、ランダムにボールを投げ、キャッチした学生が動詞を言っていき、ビンゴを競うゲームである。ビンゴした学生には、日本から買ってきた日本のお菓子をプレゼントした。

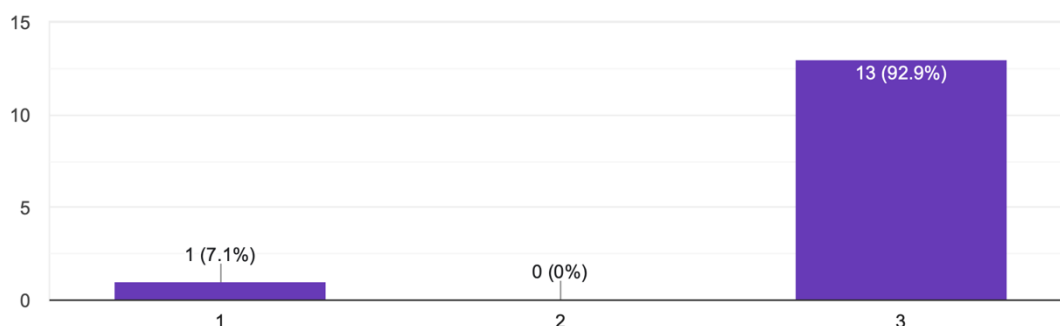
この授業の最後にも、授業ノートを記入してもらったため、それを以下に記載する。しかし、授業後半、時間があまりなく、記入をしていない学生もいた。

9月4日 授業ノート

質問 1

公民館などの講座の案内を見て、場所や日時などの情報を読み取ることができる。 Mampu menemukan informasi mengenai waktu dan tempat keti...t informasi kursus di balai kegiatan publik.

14 件の回答

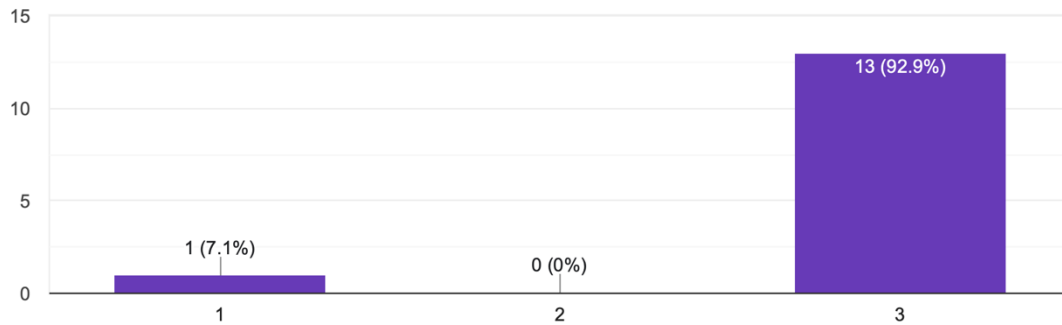


質問 1 は、数字が大きくなるほど、理解ができたという表であり、「最も理解できた」にチェックを入れたのが 13 名であった。理解できなかったにチェックを入れたのは 1 名であった。

質問 2

役所の窓口などで、興味のある講座について質問して、その答えを...serta memahami jawabannya.

14 件の回答



質問 2 は「役所の窓口などで、興味のある講座について説明をして、その答えを理解することができる」であるが、こちらも同様に 13 人は、最も理解ができたにチェックを入れており、1 人は理解できなかったにチェックを入れていた。また、授業の感想について一部抜粋する。

- A さん 日本について新しいことを学べたので楽しかった
- B さん 簡単だった
- C さん 楽しかった
- D さん 便利なことを学べた
- E さん 今までの先生で一番準備がされていた

このような回答が得られた。学生からの肯定的なコメントは、嬉しく受け止め、学生の日本語学習に貢献できたことを願い、これからの授業にも良いところは続けたいと思う。

また、コメントの中でも、「簡単だった」というコメントについて、学習者により差があり、学習のペース、内容の難易度を定めるのは難しいと感じた。

また、今回授業をするにあたり、新しい課題も見られた。

それは、クラスの秩序を保つことである。1 日に 4 時間 40 分、同じ教員が担当するため、次第に学生の集中力が途切れ、徐々に私語がふえ、秩序を保つのに苦労をした。

私は、学生の緊張を解すために距離感を縮めて学生と触れ合っていたが、そうになると教師としての立ち位置が徐々に友達のような立ち位置に変化すると感じた。今後、そうならないために、学生との距離感や、クラスの秩序を保つ方法について学んでいくつもりである。

5. インドネシアで日本語教員をしてみても

6日間、インドネシアで日本語教師をしてみても、日本での当たり前は当たり前ではないことを改めて感じた。まず、1日に3回は停電があり、授業のプロジェクターが起動しないようなトラブルが日常茶飯事だった。最初は戸惑ったが、学生が再接続の方法を教えてくれるなど、学生には本当に助けられた。日本ではあまり起こらないトラブルに上手く対応する力が必要だと感じさせられた。

また、私が最も時間を費やしたのは、やはり授業準備である。1日に4時間40分の授業資料を準備することは、教師経験のない私にとってはかなり時間がかかった。その中でも授業資料のコピーができる場所を探すのに苦労した。日本では、学校やコンビニなどあらゆる場所で簡単に印刷ができるが、学校のコピー機は枚数制限があり、コンビニにはコピー機がなかった。

私は、街中にある印刷屋さんを訪ねて、印刷をしてもらったが、印刷屋を探したり、そこまで行く時間を考えるとかなりの時間を費やした。1日に同じ先生が担当すること、学校の環境、設備など、日本とは異なる点が多かった。今回、インドネシアで、教師としての経験を積むことができ、海外での日本語教師を目指す私にとっては大変貴重な経験になった。



「町にある印刷屋」



「教室」

6. おわりに

今回、インドネシアで日本語教師として教壇に立ち、学生へ日本語を教えた経験は私の自信になった。この学校の学生は、「日本で働きたい!」という強い意志を持った学生が多く、学生たちは熱心に勉学に励んでいるため、そんな学生に日本語を教えることに強いやり甲斐を感じた。また、インドネシアの学生たちと話をしていると、就職についての不安や、日本で上手くやっていけるのか不安だという相談をされることがあった。

学生の話聞いて、改めて私は日本語教師として学生をサポートしていきたいと感じた。

19 日間のインドネシアでの教師生活には多くの出来事があったが、現地の先生や学生など多くの人の支えがあり、無事に帰国できたと実感している。

私はこれから先、日本語学習者のサポートができる良い教育者となれるように、勉学に励んでいきたい。

〈以上〉